

内閣総理大臣 鳩山由紀夫 様

2009年9月24日、総理は国際連合安全保障理事会で核廃絶を世界に訴える演説をなさいました。非核三原則をあらためて強調し、日本が核廃絶への道の先頭を立つ意思を世界に示す、大変意義のある演説であり、世界中の核廃絶を願う人々の心を打ったことでしょう。

しかし、その半年後、日本が長崎型原爆の材料であるプルトニウムを、それも同位体純度の非常に高い「兵器級」と呼ばれるプルトニウムを大量に生産しようとしていることが知られたら、世界各国の核廃絶を願う人々はどれほど失望するでしょう。

言葉では、「核廃絶」、「非核三原則」と言いつつ、その裏では原爆材料のうち最も重要なプルトニウムを大量生産する。

日本政府の核廃絶に対する「心」が疑われることは間違いありません。

それだけであればまだしも、世界各国が「日本に続け」と高速増殖炉の建設の道を進んだとしたら、プルトニウムは世界中に拡散し、「核なき世界」への道は閉ざされるでしょう。

今からでも遅くはありません。「もんじゅ」を廃止し、再処理を停止し、プルトニウムの大量生産を行う核燃料サイクル路線から撤退し、核廃絶への道を進みましょう。

総理のご英断を期待いたします。

2010年3月19日
署名者を代表して

「もんじゅ」廃止署名実行委員会（代表 槌田敦）